

多様な視点に立つ学校力向上と学校改善の取組 ～人材育成と働き方改革の推進を中核として～

別海町立上西春別小学校
学 級 数 12
(校長 近藤 康)

1 児童の現状と実践テーマの趣旨

別海町の西の端に位置する本校は、近隣学校の統廃合や多種多様な地場産業を複数もつという地盤に立っている。地域は様々な価値観や文化を認め合う気風をもち、それにならって大らかで明朗な児童が多い。一方、忍耐力や自己肯定感に課題が見られるとともに、学力面では、国語科や算数科の基礎となる「知識及び技能」の習得に課題が見られる。

そのような中、平成30年度から「学校力向上に関する総合実践事業」における実践指定校として、学校が一体となって進める包括的な学校改善を通じて、課題の解決に取り組んできた。特に「学力の向上」を主眼に置きつつ、学校運営の様々な面において明確な到達目標を設定するとともに、全教職員が一致協力して学校課題に取り組む仕組みを構築し、「学校教育目標」「人材育成」「働き方改革」「情報発信」を視点とし、3年間の実践を積み重ねてきた。

2 教育理念や経営方針を浸透させ具現化を図る

(1) 学習指導要領総則に基づく「学校教育目標と目指す子ども像」の改訂

学校の教育目標や経営方針を浸透させるために大切なことは、具体的であることと何よりも分かりやすいことである。

小学校学習指導要領解説総則編では、「各学校の教育目標を含めた教育課程の編成についての基本的な方針を、家庭や地域とも共有していくこと」とあることから、児童を含めて学校・家庭・地域で、教育目標や子ども像を共有するために、例えば、教育目標は「ひとりでもできる みんなとできる いま せいりっぱいに」と設定するなど、できるだけ分かりやすい目標で表現するよう大幅な改訂を行った。

また、目標については評価可能な内容となるよう十分に吟味し検証し設定した。

令和2年度別海町立上西春別小学校 学校経営プラン	
上西春別学区 CS めざす子ども像	「笑顔をつなごう～心をひとつに～」 ・健康な上西の子 ・あいさつができる上西の子 ・思いやりのある上西の子
教育目標	ひとりでもできる みんなとできる いま せいりっぱいに
めざす子どもの姿	
もっとかしく ◎教わりながら、わかる・できる ◎教ったことを使って解決する ◎コンピュータを上手に使う	もっとやさしく ◎元気にあいさつ・返事をする ◎友だちと伝え合い・学び合う ◎ふわふわことばで認め合う
もっとたくましく ◎粘り強くやり抜こうとする ◎まじりを守り、規則正しく生活する ◎人や社会と関わり、自分を高める	
重点課題 確かな学びを保障する協同的な授業改善 ◎課題に対する具体策	
柱1 正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成 =教えて考えさせる「みそしる・ごはん授業」= 1. ふっついでき10の定着 ◎ 2. 基本の学習過程をふまえた授業づくり ◎ (1)「課題」を設定し見通しをもたせる (2)子どもが自分の考えをもち表現する場を設定する (3)子ども同士の学び合いの場を設定する (ペアやグループの重視) (4)課題に正対したまどめやふりかえりの場を設定する 3. 効果的なITや習熟度別指導を工夫する授業づくり ◎ 4. ICTを日常的に活用した授業づくり ◎ 5. 各教科等で求められる読解・能力を育む授業づくり ◎ (1)単元に言語活動が位置づく国語の授業づくり (2)数直線図を活用して考える算数の授業づくり (3)探究的な見方・考え方を働かせ探究課題を解決する 総合的な学習の時間の授業づくり	柱2 豊かな人間性の育成 1. 生徒指導の3機能を生かした学級・授業づくり ◎ (1)自己決定の場を与える (2)自己存在感を与える (3)共感的な人間関係を育成する 2. 指導と評価の一体化を図る「考え、議論する道徳」の授業づくり ◎ 3. 支援理解ツールや面談等を活用した子ども理解の深化 4. いじめ・不登校の未然防止・早期発見・迅速対応
柱3 健やかな体の育成 1. 「する・みる・支える・知る」を働かせる体育の授業づくり 2. 1校1実践や地域の特色を生かした体力づくり 3. 危機回避能力を育てる安全・防災学習の工夫 4. 基本的な生活習慣確立のために生活リズムチェックによる保護者との情報共有	
柱4 地域と共に学びをつなぐ学校づくり 1. 保幼・中とつながる特別支援教育の推進 ◎ (1)ニーズに対応した個別の指導計画に基づく指導 (2)子ども支援委員会を核とした支援体制の充実 (3)家庭・保幼・中・関係機関等との連携 2. 保幼・中とつながる学び方の工夫 (1)家庭学習習慣定着の手だての工夫 (2)中学校教員による授業を効果的にする工夫 3. CSの展開による地域と共にある学校づくりの推進	

【別海町立上西春別小学校 学校経営プラン】

(2) 総合的な学習の時間の見直し

学校教育目標とのつながりが深く、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの中核として位置付けられている。総合的な学習の時間についても活動内容の大幅な見直しを行った。

具体的には、地域の産業・自然・文化・安全・防災・福祉を総合的に捉え、「上西春別学」として、コミュニティ・スクールや地域団体との連携を図りながら、児童や学校・地域の実情に根ざした探究課題を明確にし、学習活動を行うことができるようにした。

学 年	探 究 課 題
第3学年	(地域の基幹産業) 「牛乳の旅1～4」
第4学年	(地域の自然・文化) 「別海十景の旅1～2」、「鉄道の旅1～2」
第5学年	(地域の防災・安全) 「安心・安全に暮らすために 上西安全マップを作ろう!」
第6学年	(地域の福祉・産業) 「福祉で街づくり1～3」、「仕事で街づくり1～2」

【総合的な学習の時間における各学年の探究課題】



【第3学年「牛乳の旅」】



【第4学年「鉄道の旅」】

3 人材（初任段階教員）を包括的に育成する

課題となる児童の学力向上のためには、指導する教員の指導力の向上が不可欠である。新採用教員の割合が大きく増加したこともあり、課題解決を図るためには初任段階教員に対する組織的・計画的な人材育成が大切である。

(1) 主幹教諭を中心とした初任段階教員研修の充実

初任段階教員の中心的なサポート役は主幹教諭が担い、日常的に指導するようにした。週1回の初任段階研修で計画的な育成を図るとともに、授業を含めた仕事全般に関する様々な悩みに対しても指導助言を行い、初任段階教員が自信をもって業務を行えるような職場づくりに努めた。

(2) 初任段階教員を学級担任として配置

令和2年度は、教員としての経験を積み重ね、組織的・計画的に人材育成に取り組むことができるよう、第6学年の学級のみベテランの教員が担任し、残りの5学級は全て初任段階教員が担任した。

その際、初任段階教員の学級担任をサポートする体制として、低・中・高の各ブロック特別支援学級に中堅・ベテラン段階教員を配置するとともに、各ブロック内の中堅・ベテラン教員がメンター役となり、日常的に交流を促進し、指導助言を行うことができる体制を整備した。

また、日常的な指導として、全学年の国語科・算数科においてTTによる指導や習熟度別少人数指導を導入した。その結果、教材研究や指導の状況を複数の教員が日常的に確認するとともに、指導の在り方を交流するようになり、初任段階教員の指導力が高まってきた。

(3) 全国学力・学習状況調査等を活用した教員の指導力の向上

教員の指導力の向上を図るために大切なことは、児童に身に付けさせる資質・能力を明確にして指導することである。

そのため、教員が調査問題を解いたり、児童の解答状況を分析し、その要因を考察したりするなど、全国学力・学習状況調査等を効果的に活用し、指導力の向上を図るようにした。

【教員が調査問題を解いてみて】

- 条件に応じて書く能力を育成することが大切である。(国語科)
- 日常の授業で、問題場面を把握することを重視する必要がある。(算数科)
- 一通りの考え方だけでなく、様々な考え方ができるようにすることが大切である。(算数科)

【児童の解答状況の分析】

- (算数科を例に)
- $0.75 + 0.9$ の計算では、0.9 を0.01の9つ分と捉えてしまったため、誤答となった。
- ↓
- ある数のいくつ分かをおさえて、計算の仕方を考える活動を重視する必要がある。

(4) 個人研修テーマをもととした日常の授業づくり

本校では、研究主題から、個々の教員の実践を構築する形式から、各教員の指導上の課題に応じた個人研修テーマを設定し、学校の研究主題に迫る形式へと変更した。各教員がテーマを設定したことにより、日常の授業改善の意識が高まってきた。

また、全教員が年に1回の授業公開を行っているが、初任段階教員の公開については、他校から参加者を招く公開授業研究会として扱い、指導主事等から指導助言を受けるようにした。

このように外部から授業を見てもらう機会を設けたことにより、授業改善の在り方について明確となり、教員間で共通理解を図ることができた。

【設定した個人テーマ例】

- 導入・展開・終末までのタイムスケジュールを意識した授業展開
- 自分の思いや考えを表現できるための適切な支援の工夫



4 働き方改革に対応するための協働意識を高揚させる

学校現場の喫緊の課題である「働き方改革」は、本校でも最重要課題の一つである。今年度から完全実施となった新学習指導要領に対応するために生じる業務負担と働き方改革を両立させることは決して容易ではない。改革の第一歩として、教育活動の「質」を向上させ「中身」を精選するために教育課程の大幅な見直しを行った。

(1) 学校生活ガイドの作成と活用

各学年や各学級、または分掌が個々に対応していた保護者への連絡事項を一括し、通年で活用できるように生活・学習などの17項目を網羅した「上西小ガイド」を作成した。

作成に当たっては、働き方改革を推進しつつ、児童・教職員・保護者等がスムーズな学校生活を送ることをねらいとして、PTA役員等と十分に協議を重ねるようにした。

保存版 上西小ガイド 令和2年度 上西春別小学校 学校生活のてびき
〒089-2564 野付郡別海町西春別駅前西町2番地
TEL (0153) 77-2030 FAX (0153) 77-2946

教育目標 ひとりでできる みんなとできる いま せいじっばい もっとたくましく もっとやさしく

欠席・早退/連絡対応
朝の欠席・遅刻・早退の連絡は 7:45～8:00です
連絡がない場合、家庭訪問や動機等へ電話をする場合があります。
・体育などの見学も同じです。
保護者の返速をお願いします
平日7:45～17:00以外の時間帯は電話対応できない場合があります。緊急時は、下記(下)緊急連絡先まで、お問い合わせください。

登下校時刻
登校 4月7日: 4:55～8:00まで
4月開校後は 7:45
下校時刻(通常)
授業時間 下校時刻
5時間 1:4:00
6時間 1:4:45
下校バス時刻
14:50(全学年5時間授業の場合を除く)。
※決められた通学路で登下校します。
バスのマナーを守ります。

校外での約束
ダメなことはダメ
●いじめ・いじめ被害・危険な行為
●公園などで自分の出したゴミを持ち帰らない。
●用もないのに、お店に入る。
●お金の貸し借りやおごったおごれたり
●心配・危険
【ネット・ゲーム依存症】
●ネット・ゲームのルールは家庭で決めましょう!!
●重要! スイッチャウトゾロ
※夜更かしして体調不良を訴える子ども...

服装・持ちもの①
ランドセルはかばん(両手が自由になるもの)
○ペンカチ・ティッシュ
○歯ブラシ(必要に応じて)
○体育の時は、シューズや動きやすい服装
○汗拭きシート(朝食がある時は持って帰ってくる。)
【天候によって】
○雨具(カッパや傘)
○手袋・帽子(寒い時期)
★縦着履:スマホ・お金・その他学習に必要な物は、学校に持ってこなくていい。

服装・持ちもの②
1 マラソン大会【5月30日(土)】
& 運動会【6月13日(土)】
◎運動しやすい服(上下)・運動靴
◎汗拭きタオル
◎水筒(水又は茶一合程度の行事で)
2 水泳学習(7月～8月頃)
◎水着(競泳用) ◎水筒(帽子)
◎バスタオル ◎水泳スラッグ
◎タオル
3 スケート学習(1月下旬～2月上旬)
◎スケート靴 ◎スケートバッグ
◎寒さ対策として、防寒・厚手服装(ウインドブレーク 上下はなし)
◎ニット帽子(毛糸) ◎手袋
◎タオル(スケート拭き用)

服装・持ちもの③
口体育帽子(体育がある時や見学の時に着用します。梅雨の時は、濡してすぐに学校に持ってきて下さい)
お弁当の日
・週替りでは、年5回(お弁当の日)が設定されています。
◎5月25日(金) ◎6月26日(金)
◎9月25日(金) ◎10月28日(金)
◎11月27日(金)
・お土産やお礼は不要
・真のお土産、転出のお礼は不要です。(バレンタインも不要です。)

持ってくる学習用品
★学習に集中できるように、準備の中身はキャラクター無しの文具類を!
◎鉛筆5本(B又はHB)
◎1、2年生はB又は2B
◎消しゴム(白)
◎赤鉛筆(4～6年赤ペンも可)
◎学習用品(4～6年生・学習用品)
◎15cm程度の定規(透明で、2に折れないもの)
◎口黒の油性ペン(ネームペン)
※色鉛筆・ボールペンは使いません。
※筆記・かばんには、キーホルダー等をつけないこと。

学校生活の手引
【全学年共通】
◎はさみ ◎ステッカーのり
◎クーペー(色鉛筆可) ◎なわとび
◎体操バッグ ◎体育帽子
【1、2年生・学習用品】
◎3～6年生・学習用品(かみかんなを7月もあそびに、おまけに1枚、机の横にかけます。)
◎黒板消し
◎筆箱、かばんには、キーホルダー等をつけないこと。
◎ひもは縦向き

学年で使用するノート
1年生:国語3マス・道徳から10マス
2年生:国語15マス(15x10名刺型) 算数14マス(10x10名刺型)
3年生:国語・算数・理科・社会
-18マス(12mm方眼紙 18x13)
4・5・6年生:
国語・算数・理科・社会-5mm方眼紙
※3年生を除く全学年全てのノートは1階が入っているものを購入して下さい。
※生活科・音楽・外国語科・図画・総合的学習の学習のノート・家庭科では、縦向きで購入した『縦ファイル』を使用します。

家庭学習について
毎日、取り組めます
◎毎日、プリント(宿題)や家庭学習ノートに取り組めます。
1年生 10分 プリント
2年生 20分 プリント
3年生 30分 家庭学習ノート
4年生 40分 家庭学習ノート
5年生 50分 家庭学習ノート
6年生 60分 家庭学習ノート
※基本的に10分程度は、自分・家庭で行い、学校で確認をします。(コメントは記入しません。)

保健室から
何よりも生活リズムが大切
早朝早起き
朝ごはんではスイッチオン
保健室は病院ではありません
・保健室は、一時的に応急処置を行い、病状をみる場所です。
・家庭での学習環境を整える場合は、お礼をのべてお返ししております。
・家庭時は、保護者へご連絡ください119番です。
・アレルギーについては必ずお話しください

【「上西小ガイド」 上西春別小学校 学校生活の手引(一部抜粋)】

(2) これまでの教育活動を見直すとともに、取組のねらいや方向性を明確にする取組

教育の質の向上を図るため、これまでの教育活動を見直し、取組のねらいや方向性を明確にするとともに、その内容を保護者と共有した。これにより、管理職と各分掌部長で構成する「校務運営委員会」が一層機能し、取組の評価・改善を図るようにした。

より質の高い教育を目指して
令和2年度 上西春別小学校の取組に変化をつけています
別海町立上西春別小学校校長 近藤 康

学校を取りまく背景＝令和2年度から始まる具体的な取組＝

日本の教育の
ガイドラインの変更
【学習指導要領の改訂】

- これまでは「何を学ぶか」
それに加えて「どのように学ぶか」
＋「何が出来るようになるのか」
→「主体的・対話的で深い学び」
※**学びの機会がレベルアップ**
- 外国語活動(3・4年)・外国語(5・6年)
の新設
→**授業時間の増加**

学校における
働き方改革

- 本校の勤務時間 8:00~16:30
- 目標としている残業時間(勤務時間前も含)
□ 1か月45時間以内
□ 1年間360時間以内
(ここまで残業してよいという目安ではない)
(目標設定: 別海町教育委員会)

限られた資源の時間

より質の高い教育を推進するために

「子供たちのために」

この言葉がキーワードとなって、学校は色々なことに取り組んできました。しかし、時間が限られた資源であることに、目を向けていなかったところもあります。学校を取り巻く環境も大きく変化してきました。「学校の最も大切な役割って、何だったっけ?」に立ち戻る時期にきています。学校の教育活動の土台は、「日々の授業」です。教員の中心となる業務は、「授業と授業準備」です。授業準備の時間を確保し、授業でじっくりと子供に向き合うことで教育の質を高めています。そのために、いくつかの取組に変化をつけることにしました。ご理解とご協力をお願いします。

日課表・登下校

- 登校は7:45~8:00にお願いします→玄関開錠は、7:45です。
- 清掃時間を朝の会の前に設定します。
- 下校時刻は、5時間授業 14:00、6時間授業 14:45です。
午前授業(給食あり) 12:55
- 下校バスは、14:50(全校5時間 14:05)の1本のみです。
午前授業(給食あり) 13:00。

緊急連絡

- 臨時休校・繰り下げ登校・繰り下げ下校・運動会延期等の緊急連絡は基本的にメールでお知らせします。電話連絡は廃止します。
- メールで都合が悪い方は、学校から個別に連絡します(可能な限りメール返信にご協力ください)。

おたより

- 情報を整理し、情報が増えるおたよりを減らしていきます。
・「上西小ガイド」を配布します。
→ 学校生活に必要な基本的なコト・モノが書いています。
・ 学級通信は、各学級週1回発行です。

家庭訪問

- 住所の確認とご挨拶を兼ねた、玄関先訪問にします。
- 3日間で実施し、日程調整は行いません。不在でも構いません。
- 相談がある場合は、担任に連絡してください。別に時間を設けます。

参観日 懇談会

- 全体懇談(連絡・テーマ発信)→学級懇談という流れにします。
- 学級懇談は、担任からの説明形式を改め、全体懇談をうけてのフリートークにします。
- ざっとばらんに交流できる懇談会を目指します。

通知表

- 年2回(9月末・3月末)の発行にします。
→ 時間をかけてじっくりとお子さんの様子を見取ります。
- フォトファイル(6年間使用)を配布しますので、通知表はご家庭で保管してください。6年間の通知表アルバムになります。

運動会

- 午前の部・午後の部という形は変わりません。
- 勝敗のつく種目を増やします。
- 総練習は行いません。
- 表彰は、3年生以上による「まさこいソーラン」のみです

遠足・宿泊学習

- 遠足: 1~4年生で実施します。
- 宿泊学習: 5年生で実施。防災学習として校内で宿泊をします。
- 修学旅行: 6年生で実施します。

学習発表会を廃止
音楽発表会を新設

- 音楽の学習成果を発表する新しい行事を創り上げます。
- 詳細は教員プロジェクトチームで練り上げていきます。
- 10月に教育フェスティバルと同日開催します。

総合的な学習の時間

- 各学年で次のテーマについて、時間をかけて追究していきます
3年: 地域の酪農「牛乳の旅」
4年: 地域の自然環境と歴史「別海十景」「鉄道の旅」
5年: 安全な町づくり「防災学習」「上西安全マップ」
6年: 地域の未来と人々の願い「福祉で町づくり」「仕事で町づくり」
地域の施設や人材の活用を活発にしていきます。
● 学習成果を発表する機会を設けていきます。
● コンピュータの使い方を系統的に学んでいます。

※各学校で「探究課題」を設定して、じっくりと探究的な学習に取り組むことが学習指導要領に示されました。

本日配布した【上西小ガイド】ご家庭で見える所に貼ってください!
必要な持ち物 家庭学習 生活のきまり 早退や緊急連絡等
スムーズに学校生活を送るための情報をのせています。

【教育活動の見直しによる取組の方向性の明確化】

5 「学校力向上に関する総合実践事業」の成果を普及

取組の成果を普及するため、管内の管理職とミドルリーダーを対象とした、校長によるミニ講座を開催した。内容は、「ここが知りたい!学校力向上」を表題として、「校長のリーダーシップ」、「上西流人材育成初任段階研修を通して」をテーマに本校の取組を説明するとともに、参加者同士が意見交換をするなどして、学校力向上の取組の成果を普及しており、今後も継続していきたいと考えている。

6 成果と課題 (○: 成果、●: 課題)

- 新学習指導要領の完全実施と働き方改革の推進という二つの大きな流れの中で、「学校課題を解決するため学校力向上の取組を機能させていく」という明確な目標を学校全体でもつことができ、年齢や経験年数の違う様々な立場の教職員が、互いに協働し合い学校教育目標に向かって取り組む環境が整備された。
- 初任段階教員の育成を窓口として、学校全体の体制を総合的に見直し再構成したことにより、学校全体で互いの授業を参観し助言し合う姿がより多く見られ、授業改善の取組が推進されてきた。
- 今年度の全国学力・学習状況調査では、正答率は昨年度と変わらない状況であるが、無解答率が低くなっており、粘り強く取り組む意欲が向上してきた。
- 学校教育目標の大幅な改訂を行ったことを皮切りに、教育課程の再編成が行われ、大小様々な業務の改善を図ることができた一方で、業務改善については、現在も進行中であり、今後も積極的に取り組む必要がある。

7 今後に向けて

様々な立場と角度から学校改善のための仕組み(ハード)を整えてきたが、さらに推進させる原動力となるのは、やはり職員の意識(ソフト)である。意識段階の向上を目指して、一層の浸透を図っていききたい。